

在宅リハビリテーションチーム活動報告

医療法人 誠和会 倉敷記念訪問看護ステーション¹⁾

医療法人 誠和会 倉敷記念病院 通所リハビリテーション²⁾

医療法人 誠和会 倉敷記念病院 訪問リハビリテーション³⁾

○石田 真也¹⁾, 牧 沙紀^{2) 3)}, 横関 彩佳^{2) 3)}, 千原 柁典^{2) 3)}

坂本 祐貴^{2) 3)}, 黒住 貴史^{2) 3)}, 石田 充^{1) 2)}

【はじめに】

在宅リハビリテーションチームは在宅リハビリテーションに関する知識や病院の療法士との連携を深めるために、チーム内での勉強会や倉敷記念病院退院後訪問リハビリテーションを利用した方の病院担当療法士へ生活状況等の情報連携を行った。以下に活動内容の報告及び今後の展望について報告する。

【活動報告】

1. 活動メンバー 7名(PT4名, OT2名, ST1名 2024年2月現在)

2. 活動内容

i) 勉強会

在宅リハビリテーションチームのメンバーが変更となり、訪問リハビリテーションの制度の整理と理解するためにチーム内で勉強会を2023年12月に開催。

ii) 病院の療法士への情報連携

病院の療法士より退院後の生活状況について知る機会がないという意見もあり、倉敷記念病院を退院後訪問リハビリテーションを利用した方について病院の担当療法士へ情報連携を行った。連携内容は在宅でのリハビリテーション内容や疾患の経過、ADL・IADLの生活状況、環境調整について報告した。

3. 勉強会のテーマ

・訪問リハビリテーションの制度について

【活動の成果】

現行制度の勉強会を開催することで制度の整理と理解を深めることができた。また、令和6年度には介護報酬と診療報酬の同時改定があり、今後の在宅部門の流れについて知るきっかけとなった。在宅でリハビリテーションを開始すると、病状管理が難しい方

や生活動作に苦勞している方，自宅でのリハビリテーションに戸惑う方等がおり，情報連携を行うことで双方のリハビリテーションで良かった点や問題点が見えリハビリテーションの質の向上に繋げることができた．

【所感】

情報連携を行ったことで利用者の個別性を整理しリハビリテーションに活かすことができとても参考になり，情報の大切さを再確認することができた．勉強会では個人の力だけで知識を広く深めることには限界がある．勉強会を継続しチームで個人を支援することで在宅リハビリテーション質の向上を図っていく必要があると感じた．

【今後の展望】

令和 6 年の介護報酬改定の中には医療と介護の連携の推進があり，国を上げて連携強化に力を入れている．これから更に高齢者が増加して行く中，住み慣れた場所で生活を継続していくためにはリハビリテーションが重要な鍵となる．そのため制度の理解を深め国の動向に目を向けていくと共に在宅リハビリテーションで必要な知識を深め，症例検討を行うことで在宅リハビリテーションの質を向上していき，更なる連携強化のためには連携内容を記録し，記録内容をフィードバックすることでより良い治療を目指していく必要があると考える．